

『第3回 東海地区市民活動センタースタッフ交流会』 開催報告

【1. 開催概要】

日 時：2017年 2月 20日（月） 19：00～21：00

会 場：ウインクあいち 11階 1106 （愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38）

対 象：東海地区の市町の間支援センターの関係者

テ ー マ：『『相談』のスキルアップについて』

参加者数：19名（運営スタッフ3名+ゲスト1名含む）

〈参加者の所属（五十音順）〉

- ・あま市市民活動センター
- ・岩倉市市民活動支援センター（3名）
- ・大府市民活動センター コラビア
- ・岐阜市市民活動交流センター（2名）
- ・関市市民活動センター
- ・多治見市市民活動交流支援センター（2名）
- ・つしま夢まちづくりセンター
- ・日進市にぎわい交流館
- ・扶桑町住民活動支援センター ぷらねっと扶桑
- ・とういん市民活動センター
- ・NPO 法人 多度自然育成の会
- ・コミュネット江南（運営スタッフ）

【2. プログラム】

時間	内容
19：00	開会、趣旨説明 進行：齋藤雅治さん（コミュネット江南）
19：05	1. 相談スキルアップワークショップ 『インタビューゲーム』 ① 2人1組で互いにインタビューをし合う(15分ずつ)。 ② 相手の自己紹介文を作る。 ③ 6人くらいのグループになって、作ってもらった自己紹介文で自己紹介
20：05	2. 水野さんの経験談から『『相談を受ける』について考える』 話題提供者：水野 真由美さん
20：30	3. 感想共有グループワーク
20：45	4. 質問タイム
20：55	閉会、各種アナウンス
21：00	会場片付け→移動→懇親会 会場：つくね屋本舗 名駅店（名古屋市中村区名駅4-4-38 ウインクあいち B1F）

### 【3. プログラム進行の様子】

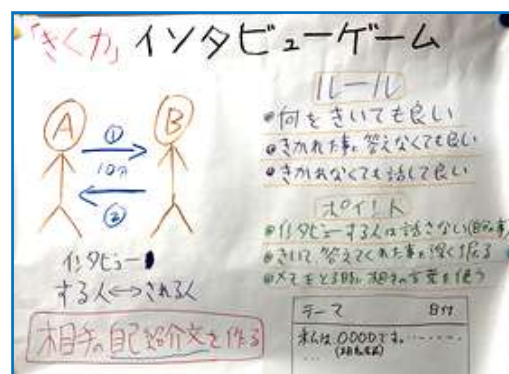
#### 1. 相談スキルアップワークショップ

相談スキルを上げるためのゲームを体験しました。

『インタビューゲーム』

進行役の齋藤さんからインタビューゲームについて説明を聞いた後、2人一組になってインタビューゲームがスタート。インタビューする側、される側を交代してそれぞれ約15分間インタビューをしました。

その後、インタビューした内容をもとに相手の自己紹介文を作成。8人一組になって作ってもらった文を読んで自己紹介をしました。



〈ゲームの説明〉



〈2人一組でインタビュー〉



〈作ってもらった文で自己紹介〉

#### 2. 水野さんの経験談から『相談を受ける』について考える

話題提供者：水野 真由美さん

- ・2016年3月、約14年間非常勤で勤めた中間支援NPO  
特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンターを退職
- ・数ヶ月前に Nagoya コミュニティ研究所 (NPO 支援の研究会) を立ち上げ
- ・子育て支援のNPO法人SKIP元理事長 (2015年12月解散)
- ・NPO法人子ども&まちネット理事
- ・日本ファンドレイジング協会

准認定ファンドレイザー

中間支援NPO職員、子育て支援のNPO理事長など、支援をする側、される側両方の豊富な経験を持つ水野さんから見た「相談」についてお話いただきました。

(水野さんのお話の要旨はP.5)



〈経験談をお話する水野さん〉

### 3. 感想共有グループワーク

その後、5人一組の3グループにわかれて感想を共有し合いました。地域やセンタースタッフ歴など、抱える問題が異なる参加者は感想もそれぞれ。みなさん真剣に耳を傾け、意見を出し合っていました。

### 4. 質問タイム

Q) お金集めをするにしても何にしても、やっぱり最終的には仲間集めが必要になる、という話が心に響きました。仲間集めをするためのセミナーや支援にはどんなものがありますか？

A) 仲間集めをするためには、団体のことや魅力を伝えることが大切です。そのためには「何のための活動なのか」をひとりよがりにならずに、きちんとオープンにして説明することが必要だと思います。

また、「信頼と共感」が人を呼び寄せます。活動する「人」への信頼と「団体」への信頼が仲間づくりにつながるのではないのでしょうか。

Q) 「何のために？」を考えられていない団体さん、「好きだから」「楽しいから」という団体さんがたくさんいます。きちんと動機付けをするように促したりしますがなかなかうまくいかないこともあります。

A 水野さん) 自分たちが楽しくてやっているのならそれでいいのではないのでしょうか？  
ただ「やらねばならない」は続けられないし、だんだん「団体のため」になっていきます。「団体のため」には誰も共感してくれません。「何のために？」を整理することは苦勞しますね。

A 齋藤さん) 2つの面があると思います。一方では「何のために？」、「この活動をする事でどうなる？」(社会性)を整理しておくことが大切ですが、もう一方で「活動メンバーが楽しくて充実感が得られる」ということを大事にしておく、何か活動してみたいと思う人が入りやすくなる(仲間が増える)と思います。「楽しいから続けている」も大切ですね。

Q) 連携をした後にどちらがリーダーシップをとればいいのかアドバイスをお願いします。

A) 協働の基本は「強みを活かして弱みを補完し合うこと」です。役割を明確にすることが大切で、そこでお互いの強みが活かせるのがいいと思います。その為にもお互いを理解し合うことが必要です。そこからでないと連携・協働は難しいですね。

一緒にやることは大変ですが、そこからたくさん広まったり、解決するスピードが上がったり、もっと良い成果が得られたりと、付加価値が上がっていきます。自分たちだけの凝り固まった頭では出て来ないアイデアが生まれていくという効果もあります。

とは言え、無い袖は振れません。強み弱みをしっかり出し合い、まずはしっかりと話し合うことが大切ですね。

Q) イベント(ワークショップ)参加者のグループ分けでのアドバイスがあればお願いします。

A) 今回のように最初に自己紹介をしてもらって、その後お話ししたい人を決めておいてもらう

と、何か持ちかえってもらえるのではないのでしょうか？自己紹介で何を期待してきたかを話してもらうのも共通意識を持った人同士がグループを組むことにつながってよいのではないかと思います。

【4. アンケート結果】

別紙参照

以上



## 話題提供 『相談を受ける』について考える 水野 真由美さんのお話：要旨

昨年3月に約14年間非常勤で勤めたNPOの中間支援組織、特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター（以下PSC）を退職し、数ヶ月前にNagoyaコミュニティ研究所（NPO支援の研究会）を立ち上げました。

もともとは社会問題には無関心層でしたが、長女が0~1歳の時に仲間と出会い、子育て支援の団体SKIP（NPO法成立後、NPO法人取得）を立ち上げ、この世界に足を踏み入れました。SKIPは託児付きのクラシックコンサートを民間企業と一緒に名古屋で開催してきました。PSCは企業とNPOとの連携協働を柱としていたので声を掛けられ、中間支援にも関わるようになりました。

PSCを辞めた理由は、大きな看板を背負った組織の中では細かい支援ができなかったからです。私は「日本パートナーシップ大賞」というNPOと企業のいい協働事例を表彰するアワードの事務局をしていて、本当は賞に選ばれないような、あるいは応募もできないような人たちの方にこそ支援が必要だと思うのに、そういう人たちを取りこぼしていくことにジレンマを感じていました。団体のミッションには共感できていましたが、団体と自分のビジョンにだんだんズレを感じるようになり去年思いきって退職しました。今の仕事ではそこでやりきれなかった小さな支援を、今まで培ったネットワークや仲間とやっていきたいと思っています。

**相談を受ける側からの視点で・・・**

私は20代前半の時に4ヶ月だけ保険の営業をしたことがあり、支店長賞を取るほどの成績を挙げていました。その時心掛けていたのは「初対面の人と保険の話は絶対にしない」ということです。趣味や最近の仕事の様子など、相手のことをよく聞いて、信頼関係を築いていくことは（相談を受ける時も）大切ですよね。

前職（PSC）では相談業務もしていました。お話を聞くことはもちろん大事ですが、相談に来る人はご自身が自分や団体のことを整理できていないことがほとんどです。自分たちが何をやりたいのか掘り下げる事も必要ですね。

SKIP時代にはお母さんたちが「子どもたちの居場所が欲しい」と相談にきました。物件を探したり、仲間を募集したり、チラシを配ったりしていましたが、話をどんどん掘り下げていくと、実は「子どもたちの居場所」ではなく、「お母さんたちの居場所」を作りたいということがわかりました。「お母さんたちが集まりやすい場所はどこだろう？」「お母さんたちが求めている企画をやろう」と視点を変えたことで話がどんどん前に進み始めました。

また、私は日本ファンドレイジング協会の准認定ファンドレイザーで、あいちコミュニティ財団のプロボノをしていますが、ファンドレイジング（資金調達）のために団体に入ってどうやってお金を集めたらいいだろうという話をします。そうすると、ほとんどがお金を集める人がいない。「お金集めの前に仲間集め」が必要なんです。法人化したいという団体さんはよく、法人化をすると大変なんじゃないかと言います。それは自分が全部やろうと思っているから。そうではなくてやってくれる人を先に探せばいいわけです。1人でやっているのだんだん疲れてきてしまいます。だから私は仲間づくりを大事にし

ています。大抵の相談はそこに行きつきます。それを「引き出す」ためには何度も話を聞き、相手の立場に立って耳を傾け、相手と一緒になって整理することが必要だと思います。

### センターを利用した時の経験をNPO側から・・・

SKIPは事務所を持っていなかったため、会議室難民でした。そのため、当時伏見にあった名古屋市民活動推進センターのヘビーユーザーでした。センターのスタッフさんとい関係が築けていて、良い情報があれば「今度こういうのがあるからチャレンジしてみたら？」と直接声を掛けてもらったりしました。

また、活動は自分達と同じような、子どもが小さいお母さんたち（女性）だけでやるものだと思いますが、手助けしたいと思ってくれる人たち（定年後の男性、子育ての終わったおばあちゃん、学生ボランティアなど）が他にもいることに気付かせてくれたのもセンタースタッフさんでした。ボランティアをしたいとセンターに来た人たちに私たちの団体を勧めてくれたのです。いい意味で常識を覆されました。

それはセンタースタッフさんが自分たちの活動の内容や時期、時間帯などをよくわかっていてくれて、関係性もできていたからです。

（齋藤さん）

自分もなかなかできていないけど、センターに来る情報をただ陳列して見つけてもらうだけではなく、関係のありそうな団体さんに紹介するとか、学生さんのボランティアを紹介するなどして「つなげる」といったことをしたいですね。上手くつなごうと思ったら相手の団体さんのことをわかっていないとできないので、伏見のセンター側にも興味や理解があったんだと思いますね。

### すそ野が広がる 交流会に誘われて

違う分野の団体さんとのつきあいが出来るようになったのも、センターさんに交流会へのブース出店などを勧めてもらったお陰です。自分たちだけでは子どもを連れてなかなか参加しようという気にならなかったのですが、「子ども」というキーワードはいろんなNPOの分野に絡めることができることに気が付きました。

当時出会ったのが「チェルノブイリ救援・中部」さんです。チェルノブイリの原発事故はもう何十年も前のことですが、今だに子どもたちが被曝し、入院していることを知りました。「チェルノブイリ救援・中部」さんは、毎年その子ども達に手づくりのクリスマスカードを贈る支援をしています。私たちの団体のイベントの中で少しお話をさせていただいて、みんなでカードを書きました。

また、環境の団体の人たちと出会って、「自分たちのまちはどうなんだろう」ということを真剣に考えるきっかけをもらったりもしました。

同じ活動をしている人の中ではすでに周知は行き届いていて、それ以上は広がらないですね。私はある自治体の職員研修の講師をさせていただいていますが、そこで環境活動をしている人と防災の活動に取り組んでいる人が事例発表をしてくれました。

環境のイベントを開催して環境関係の人ばかりが集まっても乾いたぞうきを絞るようなもので、何の啓発にもならない。全く接点のなかった分野どうし、環境分野の人と防災分野の人がつながれば、(環境分野の人が家具の転倒防止対策をして、防災分野の人がマイ箸を持つようになるなど) すそ野を広げることが可能になります。

(齋藤さん)

僕の身近なケースだと、在住外国人の問題はほぼどの分野にも関わるのに、なかなか他の分野の人たちとつながることができない。違う分野の人たちが集まって交流できて、その後「じゃあ一緒に何かやろうか」という場が作れるというのは交流会を開催する一つの意義だと思います。異分野の交流と違って、同じ分野の団体さん同士はそれぞれに大事にしていることが食い違ったりしてかえって難しいということもありますね。市民活動している人はそうでない人よりも気持ちが前向きだったりするので、一般市民を巻き込むよりもすそ野を広げやすいということもありますね。